

林 重雄¹：愛知県田原市にホホジロザメの歯の漂着Shigeo HAYASHI¹ : Tooth of *Carcarodon carcharias*, stranded on the beach of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

ネズミザメ科のホホジロザメ *Carcarodon carcharias* (Linnaeus) は、熱帯から亜熱帯の沿岸域に生息し、浅海域に出現する。全長 8 m 近くにもなる大型種で卵胎生。両顎歯は二等辺三角形で、強い鋸歯縁をもつ。歯冠の唇側面は平坦だが、舌側面は強く凸状となる（吉野・青沼 1993；金子・田中 2020）。凶暴な肉食性サメの一種で、愛知県では1995年にナミガイ漁の潜水漁業者が、渥美半島の 1 km 沖合、水深 27 m 地点で被害を受けている（矢野 1998）。

筆者は2021年9月9日、愛知県田原市谷ノ口海岸で漂着物の調査中にホホジロザメの歯の漂着を確認した。当日午前11時の天候は晴れ、最寄の伊良湖岬のデータによれば気温 25.8°C、北西の風、風速 4.0 m/s であった（気象庁ホームページ）。ホホジロザメの歯は当日の高潮線の下に位置した、扁平な中礫の密集していた場所に漂着していた。

ホホジロザメの歯は、二等辺三角形で歯冠部と歯根部が繋がっているが、両歯根部は摩耗していた。歯の高さは 33.1 mm、幅は 26.0 mm、厚さは 5.6 mm で、質量は 5.2 g であった（図 1）。表面の色彩は、歯冠部では青灰色で歯根部に近づくほど暗色となり、摩耗していたがエナメル光沢があった。歯根部は淡黄褐色で光沢は無かった。歯冠の唇側面は平坦だが、舌側面は凸状になり、両切縁には鋸歯が認められた。また、歯根部の湾入が深くなっており、この歯は下顎歯と思われる。

愛知県田原市南方の太平洋岸には中部更新統の渥美層群が海食崖や海底に露出しており、田原市高松にある海食崖のシルト質砂岩部層からは、本種の歯化石が記録されている（川瀬：西松 2016）。ホホジロザメの歯を採集した谷ノ口海岸一帯も渥美層群の分布域であり、これまでも貝化石を含んだコンクリーション礫を採集している。今回の標本はやや重厚で、歯冠の鋸歯も摩耗が進んでいる。そのためホホジロザメの歯は、現生のものではなく中部更新統の化石の可能性も高いと考えられる。

北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、記録をまとめるにあたりご教示いただいたのでお礼申し上げます。



図 1 ホホジロザメ *Carcarodon carcharias* の歯、左より唇側面、近心側、舌側面

引用文献

- 金子正彦・田中 猛. 2020. サメの歯化石のしらべ方（ネズミザメ目）. pp53-69. 地学団体研究会, 東京.
 川瀬基弘・西松弘喜. 2016. 中部更新統渥美層群豊橋層高松シルト質砂岩部総の板鰓類化石. 瑞浪化石博物館紀要. 42 : 47-61. 気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) (2021年9月10日閲覧)
 矢野和成. 1998. サメー軟骨魚類の不思議な生態. 223pp. 東海大学出版会, 東京.
 吉野哲夫・青沼佳方. 1993. 日本産魚類検索—全種の同定—（ネズミザメ目）. pp96. 東海大学出版会, 東京.
 (Received Sept. 10, 2021; accepted Oct. 5, 2021)

¹〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan